

令和2年度第1回浜田市国民健康保険運営協議会 会議録

1 日 時 令和2年5月書面開催（議決書提出期限：令和2年5月19日まで）

2 審議委員

17名

3 議題

(1) 協議事項

諮問第1号 令和2年度浜田市国民健康保険料率について

(2) 報告事項

報告第1号 令和元年度浜田市国民健康保険特別会計決算（見込）について

報告第2号 保健事業に関する報告について

4 書面審議概要

諮問事項について、令和2年5月8日から5月19日までの期間において委員へ書面議決書の提出を求めたところ、17人の委員全員から回答が得られた。諮問第1号について、賛成17、反対0であり、原案のとおり決定した。書面議決書を取りまとめた結果を会長へ通知し、浜田市国民健康保険運営協議会の総意として市長宛てに答申するという了解を得た。

5 会議録

【意見】

委員

国民皆保険制度が確立している中、それぞれの保険での被保険者の保険料等は統一することが望ましい。（モデル世帯）→まず県内の統一（低い保険料）

特に国保は高齢者・低所得者層が多く加入しており、保険料格差がある。

したがって、繰入金（国・県・市町村）を増加する要望をさらに促進することと、財政調整基金等の取崩し等で保険料の負担軽減を図って欲しい。

委員

保険料の収納率について、今後コロナウイルス対策等で社会情勢が益々厳しくなっていくと推測されるので、滞納者へのきめ細かな対応が必要と考える。この収納率は国・県等の評価にもカウントされる重要な要素であり、関係部署の連携等十分な対応をお願いする。

委員

令和元年度1人当たり医療費が8市中2番目に高く、県平均以下を目標に取り組む必要があると思う。

今後、分析の結果に基づいて重点事項（属性等）を定め、たうえで効果的な取り組みの実施を検討されてはと思う。例えば、「平成31年度浜田市生活習慣病対策のまとめ」13ページ中、悪化傾向にある糖尿病対策として、「食」と「運動」に係る市民に対する健康意識の改善を図る観点から、令和元年度から新規事業として取り組まれている「はまだ健活事業所応援プロジェクト」及び「地域食育研修会」の継続的な実施による効果向上を期待する。

併せて、協会けんぽ加入者（働き盛り世代）の対応に係る共同事業があれば連携いただきたい。

後発（ジェネリック）医薬品の差額通知実績において、普及率は向上しているが、年齢層による差異があれば、その属性に応じた対策により更なる向上が望めると思う。（協会けんぽでは18歳以下の使用率が低い）

【質疑応答】

委員

保険料賦課方式について、以前は4方式だったが、現在3方式の市町村はどのくらいか。また、4方式と3方式の被保険者の公平性について伺う。

事務局

県内19市町村のうち、現在所得割・資産割・均等割・平等割の4方式を採用しているのは知夫村のみであり、その他は所得割・均等割・平等割の3方式を採用しています。

資産割においては、固定資産税との二重課税感、低所得者においても固定資産の保有による負担がある、被用者保険や後期高齢者医療保険に資産割が採用されていないことなど多くの課題があることから、浜田市は平成22年度から資産割を廃止、他の採用市町村も年々廃止の方向へと動いてきたところです。

委員

私は3年前に脳ドックを受診、巡回人間ドックは毎年受けている。

無料の特定健診もあるが、一度に済むためお金を支払ってでも項目の多いこれらの検診を受けている。

しかしながら、時期が農繁期（稲刈り）と重なるため、もっと早く日程が組めないか。

また、脳ドックの申し込みは3年縛りがなくなったと伺っているが、巡回人間ドックと同じ時期に申し込むのか。

料金について、脳ドック10,000円、巡回人間ドック8,000円となっていますが、もう少し安くならないか。

また、ハガキでの申し込み～支所の特定健診受診券を返すというのは、勤務しているのになかなか余裕がない。何かもっと簡易な方法がないでしょうか。

毎年検診をさせていただいている。おかげで元気で安心して過ごさせていただき感謝している。

事務局

健康維持のため検診を積極的にご利用いただきありがとうございます。

脳ドックは浜田医療センター（健診センター）から割り当ていただく受診枠の関係で早くても5月下旬～6月となります。巡回人間ドック事業は、要綱に基づき市の独自事業として実施しています。この要綱は今年度末までの期限で、次年度以降については現状では未定ですが、健康づくり支援として必要と考えており、今後の運営方法を決定する中で、簡便な方策や受診までの時期前倒しについて検討いたします。

国保被保険者を対象とした脳ドックについては、例年広報はまだ4月号で4月中旬までに応募していただく形をとっています。

浜田市の脳ドック及び人間ドック検診費用総額は約4万4千円ですが、受診助成については国民健康保険料を財源としていることから、平成26年度から28年度にかけ段階的に現在

の自己負担額にしています。

なお、県内他市のドック自己負担額を調査したところ、脳ドックは 9,000～33,000 円、人間ドック 7,000～19,000 円の範囲で設定されていますので、併せて情報提供いたします。

委員

保健事業として人間ドック、脳ドック等の助成が行われているが、受診者数の推移について、またドック受診により発見された疾病等、成果について教えてほしい。

事務局

受診者の推移については以下のとおりです。

年度	脳ドック		人間ドック	
	定員	受診者数	定員	受診者数
平成 25 年度	430 人	423 人	300 人	299 人
平成 26 年度	430 人	428 人	300 人	297 人
平成 27 年度	430 人	428 人	300 人	298 人
平成 28 年度	430 人	362 人	300 人	295 人
平成 29 年度	380 人	305 人	300 人	299 人
平成 30 年度	300 人	262 人	300 人	297 人
令和元年度	280 人	245 人	300 人	235 人

また、ドックを受診された方の中には、MR I や消化器検査で異常が見つかり、受診に繋がっている状況が確認できることから、疾病の早期発見・早期治療に貢献しているものと考えています。

委員

特定健診の受診率について、市の目標は何%でしょうか。

また、職場健診、JAしまねが行う健診等も受診率に反映されますか。

事務局

浜田市の令和 2 年度の受診率目標は 54%です。また、特定健診以外の健診についても、基本の受診項目を満たすものについては受診率に反映されます。